

**【港南区】 令和 5 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議  
議事録**

開催日時	令和 5 年 2 月 14 日（火） 午前 9 時 30 分～午前 11 時 10 分
場 所	港南区役所 6 階 601・602 会議室
出席者	<p>【座長】 瀬之間康浩議員</p> <p>【議員：4 名】、田野井一雄議員、みわ智恵美議員、安西英俊議員、梶尾明議員</p> <p>【港南区：35 名】 栗原敏也区長、高橋功副区長 飛田千絵福祉保健センター長、 羽田政直福祉保健センター担当部長、 井深清港南土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	1 令和 5 年度個性ある区づくり推進費（案）について （山下総務課長説明）
発言の 要 旨	<p>梶尾議員：区民意識調査で 8 割の方は定住意向だが、残りの 2 割の方の定住意向を強める対策はあるか。</p> <p>高岡区政推進課長：8 割はかなり高いと認識している。港南区に愛着を感じていただく、転入先として港南区を選んでいただく。そのために街の魅力を発信したり、デジタルを使った子育て支援などの事業を進めたりすることで港南区の魅力を高めていきたい。</p> <p>梶尾議員：デジタルの取組が進められてきた。ここまでの成果が横展開に繋がる。「地域福祉保健活動推進事業」の「1 港南ひまわりプランの推進」の第 4 期計画の中間振り返りについて、外部機関などと連携した中間振り返り手法の検討と実施の具体的内容を教えて欲しい。</p> <p>佐藤福祉保健課長：地域福祉を共に進めている区社会福祉協議会、地域ケアプラザと区内で福祉保健活動をしている団体と地域福祉保健推進協議会を設けており、話し合いを行う中で意見を伺いながら、また社会福祉協議会や地域ケアプラザとはひまわりプラン推進のためのプロジェクトなどにより検討を進めていきたい。振り返りの手法については自治会町内会などから引き続きお話を伺いながら、もう少し視野を広げて幅広い世代、こどもや働き世代</p>

からも伺えればと思っている。地域福祉の分野では成果の指標は1年単位での変化はとらえにくいので、専門的な視点を持ったコンサル等を活用して進めていきたい。

梶尾議員：次の事業についてまとめて質問したい。

「青少年みらい応援事業」のデジタル技術を活用した催しについて具体的内容と目的。

「切れ目のない子育て情報発信事業」の子育て情報のデジタル発信について区民意識調査を受けて、LINE 公式アカウントを活用し、プッシュ型配信を実施、また、ウェブサイトでの情報発信に向け検討を実施とあるがその内容と効果。

「地域文化推進事業」の区民ホールなどでの公開型の文化イベントの実施内容。

「あったかデジタル港南推進事業」のeスポーツ体験会の取組を具体的に。

「わかりやすい情報提供事業」では、どのようなところを拡充するのか。

松田地域振興課長：「青少年みらい応援事業」のデジタルゆめワールドについて、昨年度こうなん子どもゆめワールドにおいてメタバースの体験会を実施し、その中のアンケートで約9割の方がメタバースを使うことで地域イベントに参加しやすくなると回答した。メタバースは費用がかかるのでどこまで作りこめるか協賛事業者との調整が必要ではあるが、来年度は自宅にいらながらも体験できるコンテンツを考えたい。

奥津こども家庭支援課長：「切れ目のない子育て情報発信事業」の子育て情報のデジタル発信「LINE 公式アカウントを活用したプッシュ型配信」について、出産予定日や生年月日を登録していただき、妊娠週数やお子様の年齢・月齢に合わせて育児知識やコツ、子育て支援制度などの情報を発信するサービス。そのほか、区内4エリアに分け、エリアで行っているイベント情報・保育所の情報・学齢期のお子様に関しては放課後児童クラブ等の情報を発信する。不安を抱えることの多い妊娠中・子育て中の皆様に、行政ならではの専門職が日々の相談業務を通して培った知識・経験からの情報をタイムリーに配信する仕組みを作ることで、安心して子育て

できる環境を整備する。また、ご夫婦と一緒に登録していただくことで妊娠期から共に子育てに取り組む環境づくりを進めていく。

大峽学校連携・こども担当課長：ウェブサイトについては、こども青少年局で計画している子育て応援サイト（仮称）の区更新部分のコンテンツの充実を通じて、港南区で子育てを行う魅力など発信していければと考えている。このような仕組みを作ることで、切れ目ない子育て支援の充実、子育てしやすい港南区・横浜市を作っていく。

松田地域振興課長：「地域文化推進事業」について、区民意識調査で文化活動について新たにアンケートを取ったところ、残念ながら半数以上の区民が文化活動に興味がないという結果だった。一方、コロナ禍において数々の活動が制限される中、改めてスポーツや文化活動は生活に彩りを与える大事なことと多くの方が実感している。しかし、ただイベントを企画しただけでは興味が無いということで申し込みにならないので、事前に申し込みがなくてもその場でも飛び入りで参加できるような日や場所を選び、例えば区民ホールや公会堂前の広場などでの公開型イベントを仕掛けてみたい。具体的内容については今後詰めていく。

高岡区政推進課長：「あったかデジタル港南推進事業」のeスポーツ体験会について、体験会の具体的な内容は検討中だが、デジタルに不慣れな方や苦手意識を持つ方が楽しみながらデジタルに触れるきっかけを作っていきたい。高齢者から子どもまで誰もが参加できるeスポーツ体験会を通じてデジタルに対する苦手意識を解消して全ての区民の方がデジタル技術を活用したサービスを受けられるような環境を作っていきたい。

「わかりやすい情報提供事業」の拡充だが、今月下旬からデジタルサイネージを区内6か所の公共施設・商業施設に設置し、市や区からのタイムリーな情報を表示させ、自ら最新情報の入手が難しい人にもタイムリーに情報をお届けする環境の整備を行いますが、その分の拡充である。

梶尾議員：意識調査や区民の声を聞いた予算案になっている。しっかりと取組を進めて欲しい。

安西議員：「デジタル区役所」のモデル区としての取組で、住民異動届等の窓口予約・届出内容の事前入力について実績が少ないように感じる。もっと積極的に広報すべきと考えるがどうか。

石井戸籍課長：市・区のホームページ、広報よこはまなどで広報している。利用者の方は若い方が多いため、地域情報紙への掲載や新築マンションの販売業者、住居表示区域で家を建てた際に番地を取りに来る業者、区内転居対象の方向けに行政サービスコーナーで案内チラシの配架なども行っている。今後も取り組んでいきたい。

安西議員：タブレットの活用により説明時間の短縮を図る以外の活用方法はあるか。

高岡区政推進課長：想定している活用例は、職員が出張時に手書きでメモをして区役所に戻ってからパソコンに記録していたものを、出張先で直接入力しサーバーに保存することで業務の効率化につなげたい。また、出張時に使用する図面等をサーバーに保存し、出張時でサーバーから呼び出すことで、印刷時間の削減やペーパーレスにつなげたい。

安西議員：丁寧に迅速にお願いしたい。

区民意識調査でLINEの活用は多いが、スマートフォン講座で、実感としてスマホを持っている方はたくさんいるが、アプリを使っている高齢の方はまだまだ少ない。この講座のノウハウを区役所に来てもらうだけではなく、いずれ出前や地域ケアプラザなどで動画を視聴し定期的に見ることができるなど身近に普及すべきと考えるがどうか。

松田地域振興課長：去年5月から区役所のホームページでLINEの様々な機能紹介動画をアップしていて、項目によっては2000件以上のアクセスがあるなど、今でも多くの方にご覧いただいている。

自治会町内会向けのスマートフォン講座は去年の9月から区民活動支援センターと協働で実施しており、Wi-Fi環境は必要だが、あえて自治会町内会館に出前で実施している。大変好評で、業者ではない「街のアドバイザー」により全然わからない方も丁寧に教えることができている。LINE以外のFacebookをやってみたいという声もあるので今後拡充していきたい。

安西議員：ニーズに合わせて取捨選択し進めて欲しい。

「災害に強いまちづくり事業」の避難指示のわかりやすい提供で、ホームページ上で表示するだけでなく、横浜市の公式 LINE アカウントで港南区からプッシュ型で届くようになるか。

山下総務課長：現在、避難対象区域〇〇町〇〇丁目の一部など文字情報が L アラートのシステムによりテレビやホームページで表示される。このほか、緊急時情報伝達システムという電話のシステムや安全安心メール、SNS を通じて伝えている。今回の地図形式での提供はホームページへの掲載となるが、安全安心メールや SNS にリンクをはるによりプッシュ型で提供したいと考えている。

安西議員：プッシュ型が大事だと思うので、ニーズをふまえながら横浜市の公式 LINE アカウントからの提供も検討していただきたい。また、避難対象の方には区から事前にアナウンスしていることは漏れずに表記すべき。

港南中央駅のバス停の環境改善の進捗について、今年度既存埋設管の移設が予定されていたと思うが、私が見た限りまだ始まっていないようだ。いつごろ既存埋設管の移設工事に入る予定なのか。

高岡区政推進課長：昨年 9 月に埋設管を所有している東京電力に対し、令和 5 年度から上屋工事が始まる旨を伝えた上で移設工事を依頼している。現時点では東京電力から工事日程の連絡は来ていないが、上屋の工事日程に支障がないよう引き続き調整していく。

安西議員：二つのバス乗り場になった後、1 日約 600 本のバスの振り分けについてバス事業者との調整状況はどうか。

高岡区政推進課長：3 つのバス事業者とほぼ調整が整った。新しいバス乗り場を使用するのは、鎌倉街道と環状 2 号線の交差点「日野立体」を栄区方面へ直進するバスで、本数ベースで 65%。現在のバス停を利用するのは、それ以外の 35%になる。このように分けることにより、歩道の混雑はかなり解消されると思う。

安西議員：今後も着実に進めて欲しい。

芹が谷団地の桜並木の桜の病気「さるのこしかけ」がある。区内桜道も「陽光」に代えたし、桜の木の名所では課題が出てくる。芹が谷団地の桜並木の現状について伺いたい。

坂口土木事務所副所長：芹が谷団地の桜の木について、桜の状況について緊急に対応が必要か現場を確認し、今のところ複数の木が水路敷にあり、緊急に対応が必要ではないと認識している。しかしながら「さるのこしかけ」などキノコが生えている状況なので、木の枝や腐食が進んでいる木については令和5年度に伐採するよう地元と調整していきたいと考えている。

安西議員：地元の声を聞いて着実に安全確保をお願いしたい。また、平成25年9月に芹が谷団地自治会から当該桜並木の公園整備に関する要望書が区に出されたと聞いているが、この要望書に関する今の扱いの状況はどうか。

高岡区政推進課長：環境創造局とも調整しているが、公園化は難しいと聞いている。地元の要望もあるので、引き続き地域の声を環境創造局に伝えていきたい。

安西議員：歩行者サポート事業についてニーズがたくさんあり、高齢化も進んでいるので着実に進めて欲しい。

みわ議員：新型コロナウイルス感染症等に対する港南区の取組について、第8波のセルフテストで陽性登録された数を加えても死者数があまりにも多いと思うがどうか。

佐藤福祉保健課長：以前発生届は全員から受けていたが、昨年9月26日以降は一定の条件を満たす方に変わった。危険率が比較的低い人はセルフテストのために検査キットを購入し、そこで陽性となった場合に県のサポートセンターに登録し、療養サポートを受けることができるシステムになっている。実態として、若年の方で症状が軽い方や重症化のおそれが少ない方は登録しないこともあると思われるため、実数の把握はできにくくなっている。高齢の方に関しては亡くなる方もいる。市ではショートステイの制度もあり、危険の度合いが高い高齢者が利用する施設などとは区役所としても連絡を密にとり対応したい。

みわ議員：区の職員の対応としては少なくなっている上、亡くなる方もいる上、全体として濃厚接触者に対して今は何もなく、一人だと自分で検査キットの購入からしなければならない。家にいるだけだとご飯も食べられない。行動範囲が広がる中での高齢者への感染もありうる。重篤な事態が起きていることを心にかけ、インフル

エンザとの同時流行もあるので考えて取り組んで欲しい。

区づくり推進費予算の令和5年度の区庁舎・区民利用施設管理費が2千638万円程増えているのはなぜか。

山下総務課長：電気料金をはじめ賃金水準の上乗せなど物価高騰を踏まえ全市的に区民利用施設の指定管理料が上乗せされている。

みわ議員：区役所は省エネで電気代がかからないシステムではないのか。

山下総務課長：電気料金は単価が上がっているので、対前年度と比較すると区役所も上がっている。

みわ議員：区役所も省エネ対策を工夫しているのか。

山下総務課長：色々な工夫がされている庁舎ではあるが、これからもできることから努力していく。

みわ議員：「地域カステップアップ事業」で、自治会町内会のICT活用支援でSNSなどのリスクの講習もしているのか。

松田地域振興課長：必ず講座の一番最初で、いわゆるデジタルリテラシーについて説明を行ってから始めている。

みわ議員：LINEなどちょっと触ると広告がプッシュ型で出てきてしまう。年代的な格差があるが、子ども達はタブレットを使い、スマホの普及率も高い。教育の場面でも取り組まれていると思うが、区役所として子ども達や若年層へのデジタルリテラシーについての取組はどうなっているのか。

高岡区政推進課長：子ども限定ではないが、「あったかデジタル港南推進事業」の中でデジタル講演会を新規で計上している。今後、横浜DX戦略の取組やデジタル区役所モデル区の取組が進み、区民がデジタル機器に触れる機会が増えてくる中で、リスク回避の方法などを学ぶような講演会としたい。対象を限定することは考えていないが、デジタルに慣れ親しんでいない高齢者やインターネットやスマートフォンを利用し始める小学生や保護者を主な対象にしたい。具体的な開催方法はご意見を踏まえ今後検討していく。

みわ議員：報道で騒がれているような、犯罪に巻き込まれるような使われ方、簡単に携帯を1日貸したら1万円を貰えるなど犯罪に巻き込まれていく危険がすぐ隣にある。便利なツールが皆の幸せのために利用されると良い。

「青少年みらい応援事業」で、全体の精神、子ども食堂との連

携や、横浜市全体として始まったばかりのヤングケアラーへの取組をどのように考えているのか。

佐藤福祉保健課長：子ども食堂について、地域福祉の窓口支援として、社会福祉協議会や地域ケアプラザと連携して引き続き取り組みたい。社会福祉協議会では子育て支援者、NPO、ボランティアの支援として子ども食堂や学習支援など子ども達のためにできるさまざまな活動支援を行っている。立ち上げだけでなく継続支援として、地域ケアプラザでは事業支援もしている。そのほか必要な手続きや助成制度などを紹介している。

みわ議員：地域の子ども達やお年寄りに対して直接的なノウハウを含めて支援があるのはありがたい。最後に予算編成に向けた区提案反映制度で、港南台駅から新たな南部病院へのアクセス強化について、シャトルバスを走らせることによるアクセスの向上が書かれているが、交通不便地域の方からもう少し山の上までバスを伸ばして欲しいなどの声が出ているので、南部病院にとどまらず地域交通の充実に向けて取り組んで欲しい。

田野井議員：デジタル区役所モデル区として、市の協力体制はどうか。

高岡区政推進課長：デジタル統括本部からは、予算を配付いただいたり担当係長を兼務で派遣いただいたり手厚い伴走型支援をいただいている。

田野井議員：様々な実績・効果が出ているが、利用する方は若い方が多いとの事だが、高齢者の利用はどうか。

高岡区政推進課長：例えば住民異動届の予約や家屋調査日程の予約などは若い世代が多いが、その他の取り組みの高齢者の利用率などは把握していない。

田野井議員：窓口は高齢者が多いと感じる。その方々への対応はデジタル化によりどうなるのか。

高岡区政推進課長：デジタルデバインド対策として、区民向けと自治会町内会向けのスマートフォン講座を実施した。また、アプリの使い方などスマートフォン相談窓口を2月1日から区役所1階で開設し2人体制で対応している。さらに、今月下旬から区内の公共施設、商業施設など6か所にデジタルサイネージを設置し、市や区からのタイムリーな情報を自分で情報を取るのが難しい方向け

に発信する取組を始める。令和5年度には、新規事業として楽しみながらデジタルに触れ、慣れていただくeスポーツ体験会を開催するなど、デジタルデバインド対策を進めていく。

田野井議員：安全で快適な生活推進事業の災害時のペット同行避難支援について、トルコで大震災があり、いつ災害があるかわからない。区民意識調査でも今後の災害対策が充実したまちを望む区民が31%いる。自治会町会では車いすや一人暮らしの人を把握している。避難訓練の際に各自治会町内会でペットについても把握しておくなどきめ細やかな対応をしてHUG訓練(避難所運営ゲーム)を行うべきである。現在のHUG訓練の状況はどうか

私市生活衛生課長：コロナ渦で防災訓練が行いにくい中、ペット同行避難の必要性を発信していきたいと考え、今回初めて講演会の企画をした。実際にペットを同行して避難が行われたわけではないが、4年度は2か所でペット同行避難に係る生活衛生課職員の講話や展示会の開催が行われた。そのうち1か所ではHUG訓練の中でペット同行避難に関することが行われた。コロナ渦が明けていく中で、実際に地域防災拠点でのペット同行避難が必要と考えている。

田野井議員：ペットは家族の一員、一時避難なので場所を事前に自治会町内会と連携し訓練することを推奨していただきたい。

瀬之間議員：「区民活動・生涯学習支援事業」の新規事業の港南区「まなび」応援事業はどんな事業か。

松田地域振興課長：区内には地域振興課所管施設以外にも含めて33か所の指定管理施設等があり、それぞれ特徴がある。同じエリアでも指定管理者が違うだけで連携ができていない場合がある。それらを結びつけ、得意・不得意をうまく組み合わせることにより、生涯学習の理解促進及び施設の新規利用者の増加を目的とした、新たな視点による学びの講座を企画したいと考えている。

瀬之間議員：「あったかデジタル港南推進事業」のeスポーツ体験会についてどのような場所で開催するのか、またどのような環境整備を行う予定なのか。

高岡区政推進課長：開催場所は検討中だが、例えば区役所などの会議室でも機械を持ってくればできるし、上大岡にはeスポーツの場所も

	<p>ある。環境整備は、今後上位 100 の手続きなどでデジタル化が進むが、高齢者の方などにデジタルに対する苦手意識を解消していただき、全ての方がデジタル技術を活用したサービスを受けられるような環境を作っていきたい。</p>
備 考	